

厚生労働科学研究費補助金  
障害者政策総合研究事業（感覚器障害分野）  
総括研究報告書（H30-感覚器-一般-001）

聴覚障害児支援のための研修プログラム・テキスト開発のための研究

総括研究者：黒田 生子（帝京平成大学健康メディカル学部言語聴覚学科 教授）

研究要旨

本邦の児童発達支援現場では、聴覚障がい児および盲ろう児の適切な早期支援法は十分普及しておらず、当事者が必要とする支援が必ずしも居住地域で十分受けられないことが大きい問題である。他方、聴覚障がい児及び盲ろう児を育成する養育者への初期対応は極めて重要で、早期に適切な補装具（補助具）を活用し、健全な親子のコミュニケーション関係を構築することが、子どもの日本語の獲得のみならず、子どもの健やかな自己形成や社会性の発達にも、極めて大きい影響を及ぼすと考えらえる。

こうした現状をふまえ、将来的にわが国の児童発達支援担当者が、聴覚障がい児と盲ろう児の支援を適切に実践可能となるよう、研修用プログラムとテキストの開発を行った。テキストは、補装具・補助具の装用の必要性や具体的な支援法を習得可能となるよう、基礎から応用までの全4領域を段階的に学習できるよう構成され、学習の補助教材としてDVD教材（4番組収録）が添付されている。

今後テキストとDVDを活用した定期研修会の開催と受講およびインターネットを活用した学習点検体制などの整備により、聴覚障がい児・盲ろう児支援の必要性が広く社会的に周知され、また支援方法を体得した現任者の増加により児童発達支援現場の質が向上し、当事者に還元されることが期待される。

A. 研究目的

1) 問題の所在：

本邦では新生児聴覚スクリーニングの普及に伴い、0歳台で難聴の診断を受け、臨床支援を要する子どもが増加している。しかし療育機関の設置状況の地域差ゆえに、居住地域で十分な支援を受けられないケースも少なくない<sup>1)</sup>。近年では各地方自治体で手話言語条例の制定が進み、一部には聴覚活用を重視しない支援現場の動向も認められている<sup>2)</sup>。こうした背景には、従来早期補聴の重要性が、子どもの音声言語能力の促進に限定した議論になりがちで、当事者のQOLや養育者との関係性の質にも関わる、聴覚活用が本来有している情操的な意味合い<sup>3)</sup>に十分目が向けられてこなかった影響が考えられる。特に乳幼児の発達には関わり手である大人側の「受け手効果」<sup>4)</sup>が有する役割は極めて大きく、それゆえ養育者と子どものコミュニケーション関係の構築は重要<sup>5,6)</sup>で、そこに聴覚活用が果たす役割を吟味することには大きい意義がある。当事者に

よれば、難聴とは音韻記号の聴取困難に留まらず、感性(情操)的なコミュニケーションの不全感<sup>7)</sup>に伴う不安感や孤独感、抑うつ感<sup>7)</sup>を招く問題である。同時に日常を彩る音の風景(サウンドスケープ)の喪失<sup>7)</sup>と、ことばや文化の概念基盤を支える日本的で感性的な経験の喪失<sup>7)</sup>も大きい問題である。

2) 目的と特色：

こうした背景をふまえ、下記の特徴を有した児童発達支援担当者向けの聴覚障がい児および盲ろう(視覚聴覚二重障がい)児の発達支援研修プログラム・テキストを開発(プロトタイプ作成、有効性検証、修正・完成)し、望ましい臨床発達支援の在り方のモデルを呈示した。

本プログラムはa)「当事者の現実(アクチュアリティ)」<sup>3)</sup>から出発し、医療的視点に留まらず、将来の子どもの社会参加と自己形成を念頭に作成した。そしてb)聴覚障がい児および盲ろう(視覚聴覚二重障がい)児の発達を

養育者との関係発達<sup>4)</sup>の視点で捉え、聴覚活用が子どもの発達に有する重要性を改めて明示し、同時にc)同障者との関係性の視点から手話の意義を再整理し、聴覚活用と単純に拮抗しないことを示した。

【参考文献】1)厚生労働省(2014)全国盲ろう難聴児施設協議会資料、2)大沼直紀(2006)聴能 聴覚障害者の聴覚活用システム、デザイン学研究,13(3),45-53、3)黒田生子(2012)人工内耳と難聴児教育、ろう教育科学会(編),「聴覚障害教育の歴史と展望」風間書房、4)鯨岡峻(1997)「原初的コミュニケーションの諸相」ミネルヴァ書房、5)厚生労働省(2014)今後の障害児支援の在り方について報告書、6)田中美郷・廣田栄子(1995)「聴覚活用の実際」聴覚障害者教育福祉協会、7)黒田生子(2008)「人工内耳とコミュニケーション」ミネルヴァ書房

## B. 研究方法

### 1) 研修プログラムの基本方針とテキスト構成の概要:

発達の最早期にある就学前聴覚障がい乳幼児および盲ろう(視覚聴覚二重障がい)児の発達支援研修プログラム作成にあたり、療育に必要な医学的知識習得の視点から発達評価と支援の方法を学習するのに留まらず、発達心理学視点から乳幼児の健やかな心身の育成を支える保育理論を基調とした、包括的な学習プログラムを作成した。

乳幼児の早期保育支援の考え方には、鯨岡<sup>1)</sup>の関係発達論を基調に据え、さらに医療的な聴覚障害児支援の在り方については、田中・廣田<sup>2)</sup>が実践した、母子のホームトレーニング指導の考え方を、現在の社会情勢に照らし、より乳幼児向けに応用した内容とした。テキストは研究代表者が作成した言語聴覚士養成用の講義用資料を基に、「基礎研修」3領域(【領域1】:聴覚障がい児・盲ろう(視覚聴覚二重障がい)児の発達支援の基本指針【領域2】:聴覚障害・視覚障害の評価・診断の基礎【領域3】:聴覚障害・視覚障害の補装具・補助具と環境調整、情報アクセシビリティ)および、「応用研修」1領域(【領域4】:聴覚障がい児および盲ろう(視覚聴覚二重障がい)児の発達支援の実際)の、全4領域から構成し、実践現場の現状に照らして、必要な加筆と修正を行った。

【参考文献】1)鯨岡峻(1999)「関係発達論の構築」ミネルヴァ書房 2)田中美郷、廣田栄子(1995)「聴覚活用の実際」聴覚障害者教育福祉協会

### 2) 支援現場および当事者からの意見聴取とテキスト・DVDへの反映:

プログラムの精緻化のため支援現場の現任者、有識者、当事者の意見を聴取してテキス

トの作成を進めた。また支援の実際が理解し易いよう、臨床実践(検査、問診など)の様子と当事者(養育者)の様子(各インタビュー動画)を収録したDVD教材(4番組:「聴覚障がい児および聴覚障害ベースの盲ろう児の支援 基礎編」,「同左 実践編」,「視覚障がい児および視覚障害ベースの盲ろう児の支援 基礎編」,「盲ろう者とコミュニケーション~当事者の語りから考える支援」)を作成し、テキストの学習補助教材として添付した。

各々、下記の研究協力者の参加と協力を得て、意見の聴取・交換を行った。

A <テキスト作成協力者> 医師、言語聴覚士、視能訓練士、当事者ら11名の研究協力を得た。

(1)【聴覚障害領域】(6名): 医師1名(原田勇彦/帝京大学ちば総合医療センター耳鼻咽喉科)、言語聴覚士3名(工藤多賀/東京都立北療育医療センター訓練科、森つくり/MORI SPEECH CLINIC、関根久美子/東京都立大塚ろう学校乳幼児相談)、当事者1名(高田英一/全国手話研修センター所長)、児童発達支援施設元園長1名(伊藤泉/元岐阜市みやこ園園長)

(2)【視覚障害領域】(4名): 医師1名(星川じゅん/かがわ総合リハビリテーションセンター病院眼科)、視能訓練士2名(星原徳子/河原眼科クリニック、林京子/かがわ総合リハビリテーションセンター病院眼科)、研究者1名(田中良広/帝京平成大学現代ライフ学部児童学科教授)

(3)【盲ろう領域】(1名): 研究者・当事者1名(福島智/東京大学先端科学技術研究センター教授)

B <DVD撮影等協力者> 医師、言語聴覚士、視能訓練士、当事者、手話通訳者他26名の研究協力を得た。

(1)【聴覚障害領域】(10名) 医師1名(藤本政明/藤本耳鼻咽喉科クリニック)、言語聴覚士2名(工藤多賀/東京都立北療育医療センター、関根久美子/東京都立大塚ろう学校乳幼児相談)、当事者7名(聴覚障害乳幼児3名、養育者3名、発達障害幼児1名)

(2)【視覚障害領域】(6名) 医師1名(星川じゅん/かがわ総合リハビリテーションセンター病院眼科)、視能訓練士3名(星原徳子/河原眼科クリニック、林京子/かがわ総合リハビリテーションセンター病院眼科、橋本真代/河原眼科クリニック)、健常児モデル2名

(3)【盲ろう領域】(10名) 言語聴覚士1名(森壽子/藤本耳鼻咽喉科クリニック)、当事者5名(赤堀愛(ろうベースの後天性盲ろう者)とご両親、福島智(盲ベースの後天性盲ろう者)/東京大学先端科学技術研究センター、森

敦史（先天性盲ろう者）/筑波技術大学）手話通訳者4名  
（指字通訳者2名、触手話通訳者2名）

### （倫理面への配慮）

テキストに具体的ケース（エピソードや写真）を紹介する場合は、患者のプライバシーに配慮し、個人を特定できないよう十分に注意を払った。また動画撮影の際は対象者に画像の使用目的を説明し、書面にて同意を得た上で撮影を行い、希望があれば個人を特定できないよう画像処理を行った。

## C. 研究結果

1) テキストの作成について：支援現場の現任者、有識者、当事者らとの意見交換をふまえて以下のテキストを作成した。

### A <基礎研修>

(1) 領域：聴覚障がい児・盲ろう（視覚聴覚二重障がい）児の発達支援の基本指針：第1章 当事者が「より良く生きる」ための支援とは【乳幼児の主体性と社会性を育む支援】【聴覚障がい児・者のQOLと感性的なコミュニケーション】【盲ろう（視覚聴覚二重障がい）児・者のQOLとコミュニケーション】

(2) 領域：聴覚障害・視覚障害の評価・診断の基礎：第2章 聴覚障害の評価・診断の基礎【聴覚活用の意義と早期発見・支援の必要性、新生児聴覚スクリーニングの実施から支援への流れ】【聴覚器官の構造と機能】

【聴覚伝導路と聴覚障害の種類】【聴覚障害および盲ろう（視覚聴覚二重障害）の主な原因疾患と病態】【聴覚障害の評価・診断に用いる各種の聴覚検査】【聴覚障害の重症度と福祉の助成】【健常児の聴覚発達】【各種発達検査・知能検査・言語検査と実施上の配慮点】第3章 視覚障害の評価・診断の基礎【視覚障害の早期発見・支援の重要性】【視覚器官（眼球）の構造と機能】【視覚経路と視覚障害の種類】【視覚障害の主な原因疾患と病態】【視覚障害の評価・診断に用いる各種の視能検査と記録の仕方】【健常児の視覚発達】【各種の視能検査実施上の配慮点と弱視・斜視訓練の実際】【視覚障害の重症度と福祉の助成】

(3) 領域：聴覚障害・視覚障害の補装具・補助具と環境調整、情報アクセシビリティ：第4章 聴覚障害の補装具～補聴器・人工内耳【補聴器の構造と音の原理】【補聴器の種類と特色】【補聴器のフィッティング環境と音質調整】【補聴器の特性検査とテクニカルデータの読み取り】【補聴器の耳型採型とイヤモールド】【補聴器と福祉の助成】【人工内耳開発の歴史】【人工内耳の構造と音の原理】【人工内耳の種類と特色】【人工内耳の適応基準】【人工内耳のプログラミング環境とマッピング】【SN比への目配りと補聴環境の整備】第5章 視覚障害の補助具とロービジョンケア【ロービジョンとロービジョンケア】【ロービジョンの見え方】【光学補助具の

種類と特色】【非光学補助具の種類と特色】【視覚障害の環境調整の実際】第6章 感覚器に障害をもつ子どもの情報アクセシビリティ【感覚器に障害をもつ子どもの情報アクセシビリティと支援の実際】

### B <応用研修>

(4) 領域：聴覚障がい児および盲ろう（視覚聴覚二重障がい）児の発達支援の実際：第7章

臨床発達支援の考え方～歴史的な変遷【幼小児難聴を取り巻く近年の社会情勢の変化】【聴覚障害・盲ろう（視覚聴覚二重障害）を有する人のコミュニケーション・モード】【聴覚障がい児の支援理念の変遷～聴能訓練法から聴覚学習モデルへ】【聴覚障がい乳幼児の発達支援の考え方～子どもの自己形成とコミュニケーション、ホームトレーニングの考え方と両親支援の重要性】第8章 臨床発達支援の実際【臨床発達支援の目的と一般的枠組み】【0歳からのコミュニケーションと日常生活をベースにした発達支援～発達支援の第1ステージから第6ステージ】【クリニックでの構造的な言語獲得支援・構音獲得支援】【特別支援教育現場の乳幼児相談】【感覚器の障害と発達障害を合わせもつ子どもの支援】【盲ろう（視覚聴覚二重障がい）乳幼児の発達支援～聴覚障がい児支援をベースにした考え方、視覚障がい児支援をベースにした考え方】【青年期以降の社会適応上の問題点と乳幼児期に考えるべきこと】

2) DVDの作成について：支援現場の現任者、有識者、当事者らの協力により、学習補助教材として、以下の4番組を作成した。

(1) 番組1：【聴覚障がい児および聴覚障害ベースの盲ろう児の支援 基礎編】聴覚障がい児および聴覚障害ベースの盲ろう児の支援法について番組を作成した。基礎編では聴覚障害に伴う問題点の整理とともに、聴覚活用の意義や各種の幼児聴覚検査、いろいろな補装具の基礎、聴取状態の評価法等を収録した。

(2) 番組2：【聴覚障がい児および聴覚障害ベースの盲ろう児の支援 実践編】聴覚障がい児および聴覚障害ベースの盲ろう児および養育者への支援の実践について、配慮の必要なポイントを整理して番組を作成した。実践編では 医師による検査の様子（モデル：藤本政明医師、発達障害幼児1名、撮影場所：藤本耳鼻咽喉科クリニック）と、言語聴覚士による幼児聴覚検査および養育者への問診の様子のほか、養育者（2家族）へのインタビュー（モデル：工藤多賀ST、聴覚障がい幼児3名、保護者<sup>ふた</sup>2家族2名、撮影場所：東京都立北療育医療センター訓練科）の様子を撮影し、収録した。

(3) 番組3：【視覚障がい児および視覚障害ベースの盲ろう児の支援 基礎編】視覚障がい児および視覚障害ベースの盲ろう児支援の基

礎について、視覚の障害に伴う諸問題と支援上のポイントを整理し、子どもに実施可能な視覚検査の実際と各種の補助具を取りまとめて番組を作成した。挿入動画は 医師による検査の様子（モデル：星川じゅん医師、健常幼児 2 名、撮影場所：かがわ総合リハビリテーションセンター眼科）と、視能訓練士による幼児視覚検査の様子（モデル：星原徳子 00、同上幼児 2 名、撮影場所：かがわ総合リハビリテーションセンター眼科）を収録した。

**(4) 番組 4：【盲ろう者とコミュニケーション～当事者の語りから考える支援】** 障害発症の時期と経緯の異なる 3 名の盲ろう当事者（および家族）にインタビューを行い、支援に際して考えるべきポイントを取りまとめて番組を作成した。（モデル：赤堀愛氏（ろうベースの後天性盲ろう者）とご両親、森壽子 ST、撮影場所：藤本耳鼻咽喉科クリニック、モデル：福島智氏（盲ベースの後天性盲ろう者） 通訳者 2 名、撮影場所：東京大学先端科学技術センター、モデル：森敦史氏（先天性盲ろう者） 通訳者 2 名、撮影場所：筑波技術大学）

#### D．考察

本邦の児童発達支援現場では、聴覚障がい児および盲ろう児の早期支援法には地域間格差が大きく、十分普及しているとはいえない状況にある。そのため、当事者が必要とする支援が必ずしも居住地域で十分受けられないことが大きい問題であり、視・聴覚に障害を持つ子どもの早期支援方法の普及と、一定の支援の質の担保が、今後早急に解決すべき重要な課題である。

他方、聴覚障がい児及び盲ろう児を育成する養育者への初期対応は極めて重要であり、早期に補装具（補助具）を適切に活用するとともに、柔軟に補助的手段を活用しながら、情動的で、生き生きとした親子の感性的なコミュニケーション関係を構築することには大変大きい意義がある。そしてこうした親子間の感性的なコミュニケーション関係の構築とは、子どもの日本語（特に概念）の獲得や文化の理解に大きい意義を有するのみならず、子どもの健やかな自己形成や社会性の発達にも、極めて大きい影響を及ぼすと考えらえる。

こうした点をふまえて、今回私どもは医療・福祉・教育・心理の各支援現場の現任者、有識者および当事者の協力を得て、聴覚障がい児および盲ろう児の早期発達支援プロ

グラムを作成し、テキストの取りまとめを行った。テキストは児童発達支援現場の初任者向けに、平易に段階的に補装具（補助具）装用の必要性や具体的な支援法を学べるよう作成され、学習の補助教材として、4 番組を収録した DVD 教材が添付され、わかりやすく作成されている。

今後はテキストと DVD を活用した定期研修会の開催およびテキスト購入者（受講者）を対象とした、インターネットを活用した学習点検体制など（たとえば、領域別のミニテスト～基礎研修 3 領域各 20 問 30 分程度、応用研修 1 領域 40 問 60 分程度～が受験できる体制など）の整備により、聴覚障がい児・盲ろう児支援の必要性が広く社会的に周知され、また支援方法を体得した現任者の増加により児童発達支援現場の質が向上し、当事者に還元可能となることが期待される。

また補装具・補助具の使用状況については常に最新の動向に目を配り、必用に応じてテキストの改変を継続していくことも、今後必要と考えられる。

#### E．結論

聴覚障がい児および盲ろう児の早期支援体制に、地域差の大きいわが国の児童発達支援現場の状況に鑑み、医療・福祉・教育・心理の広い学際領域の協力者を得て、聴覚障がい児および盲ろう児の発達支援プログラムを開発し、DVD 付きテキストを編纂した。

テキストは基礎研修領域 3 領域（聴覚障がい児・盲ろう（視覚聴覚二重障がい）児の発達支援の基本指針、聴覚障害・視覚障害の評価・診断の基礎、聴覚障害・視覚障害の補装具・補助具と環境調整、情報アクセシビリティ）と、応用研修領域 1 領域（聴覚障がい児および盲ろう児の発達支援の実際）の、全 4 領域から構成され、学習補助教材として DVD（4 番組収録）が添付されている。

本プログラムは、鯨岡の保育理論（関係発達論）を基調とし、子どもへの直接的な支援と同様に、養育者への十分な支援が重視されているほか、当事者とその家族との協働により、当事者のニーズから出発し、作成された点に大きい特色がある。

今後、テキストを活用した研修体制の確立およびインターネットを利用した学習点検体制の整備等により、聴覚障がい児および盲ろう児の早期支援の方法が、広く社会的に周知されて安定した支援体制が確立され、当事者の利益に還元されることが強く期待される。

## F．研究発表

### 1. 著 書：

黒田生子ほか編著・監修（2020 予定）：

『聴覚障がい児・盲ろう児の発達支援テキスト（DVD 付き）基礎編』 エスコアール

黒田生子ほか編著・監修（2020 予定）：

『聴覚障がい児・盲ろう児の発達支援テキスト（DVD 付き）実践編』 エスコアール

黒田生子(2020):「盲ろう者とコミュニケーション(仮)」所収 鯨岡 峻・大倉得史編著 『「接面」を生きる人間学(仮)』 ミネルヴァ書房

### 2. 論文発表

特になし。

### 3. 学会発表

○黒田生子、森尚彫、野原信、森つくり、熊井正之、原田勇彦

「聴覚障がい児・視覚聴覚二重障がい児の早期発達支援～児童発達支援初任者用研修プログラムの開発について」AUDIOLOGY JAPAN61(5), p522, 2018

## G．知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

### 1. 特許取得

特になし。

### 2. 実用新案登録

特になし。

### 3. その他

特になし。